

## **北信越中学校体育連盟軟式野球専門部 特別規程**

「北信越大会特別規程」、「競技上の注意・確認事項および用具・装具規程」をまとめたものを、「北信越中学校体育連盟軟式野球専門部 特別規程」とする。

ここに記載のない内容は、公認野球規則ならびに（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携による。

### **北信越大会規程**

#### **【競技を行うにあたって】**

1. 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し連絡する。降雨等による順延などの場合、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。（試合の中断は大会本部と野球連盟で協議し決定する。雷等危険を伴う場合は、球審の判断で試合を中断する場合もある）
2. 試合会場の施設状況により、会場特別ルールを適用することもある。  
※詳細は大会本部で決定し事前通知するとともに、代表者会議または試合開始前に両チームに確認を行う。
3. 用具装具については、試合前に審判員又は競技役員の確認に応じなければならない。
4. 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合は、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。

#### **【試合開始前】**

5. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻 1 時間前までに会場に到着しその旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延については、大会本部で対応措置を協議し決定する。
6. 打順表の交換及び攻守決定は、第 1 試合は試合開始 40 分前、第 2 試合以降は前試合の 4 回終了時とする。但し、第 1 試合の前に開会式がある場合や勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、その都度本部で決定し連絡する。監督・主将は打順表用紙 5 部（全項目及びふりがな記載）持参し、「オーダー交換マニュアル」に沿って競技役員・担当審判員と打合せを行う。  
（その後、「応援に関する確認事項」に沿って応援代表者への確認の会を実施する）
7. 試合前の球場練習については登録人員（選手・監督・コーチ）およびシートノック補助員 3 名のみとする。
  - (1) ユニフォーム着用者以外のグラウンド内への立ち入りを禁止する。
  - (2) 球場内ではトスバッティングまでとし、ハーフ打撃、フリー打撃は禁止とする。
  - (3) 球場内練習時の服装はユニフォームを原則とする。第 1 試合チームは打順表の交換まではチームで統一された T シャツも可とする。（※アンダーシャツのみは禁止）
  - (4) グラウンドに出る際は、必ず着帽する。
8. シートノックについては以下の通りとする。
  - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わる場合はこの限りではない。
  - (2) 時間は 7 分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
  - (3) 後攻チームが先に行う。
  - (4) 選手・監督・コーチの他に 3 名の補助員（ユニフォーム着用：選手と同一が望ましいが、準備できない場合は練習着でも可）をつけて行うことができる。
  - (5) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。
  - (6) マウンドの使用は認めない。
  - (7) ノッカーにボール渡す選手は、ヘルメットの着用を義務付ける。
9. ベンチの入れ替わりの時とシートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でのキャッチボールや素振り、準備運動等をすることは認める。

### 【試合中】

10. 選手交代の申し出は監督が行う。監督は球審に背番号・氏名を告げ、選手は背番号を球審に見せる。
11. ベンチ内でのメガホン1個とし、その使用は監督に限る。また、ベンチ内での電子機器類（携帯電話、パソコン等）携帯マイクの使用を禁止する。
12. コーチは試合前のシートノックの時以外はベンチから出ないものとする。
13. 選手以外はコーチスボックスに入ることはできない。
14. 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り7球以内（1分を限度）が許される。次回からは3球以内とする。またキャッチャーの装具準備時において2球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。
15. ブルペンでの投球練習、交代選手のキャッチボールなど必要以外の選手はベンチから出ない。交代選手のグラウンド内でのウォームアップは、バッテリーを含む4名以内としキャッチボールのみ認める。（ランニングやダッシュ、ストレッチ、素振り、ゴロやフライ捕球等禁止）ただし、攻守交代時に限り、ファウルグラウンドで外野の方向へランニングすることを認める。また、試合途中にグラウンド整備が行われている間は、ベンチ前でキャッチボールや素振り等をしてよい。
16. 次打者席には必ず次打者選手がいること。
17. 本塁打を打った打者走者にベースコーチが握手を求めたり、ベンチにいる選手が握手を求めたり等の行為のためにグラウンドに出ではいけない。
18. 4回終了時と延長戦開始前に給水タイムとグラウンド整備（3分程度）を行う。
19. 次の試合の先発バッテリーについては、攻守決定終了後、試合に差し支えない範囲で、ブルペンでの投球練習を許可する。
20. 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える状態を指す。伝令を使う場合や、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを超えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
21. ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「20」と同じ行為であれば回数に数える。
22. 危険防止のため、次のことを徹底する。
  - (1) バットリング・鉄棒・マスコットバット・公認球以外のボール等試合に使用しないものを球場内に持ち込むことを禁止する。
  - (2) 試合中のグラウンドでは、打席に入る打者と次打者席内の者以外は素振りをしてはいけない。

### 競技上の注意・確認事項および用具・装具規程

1. 選手の頭髪・身なりなどは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、スポーツマンらしい態度で大会に参加すること。（校則を守って大会に参加する）
2. 試合開始前の挨拶（礼）は、両チームが同時に行うこと。また、審判員も同時にあいさつ（礼）を行うので改めて審判員等への礼は行わない。（すべてを含めて全員が一斉に行う）
3. 試合進行や大会運営の円滑化のため次のことに留意する。
  - (1) 打者席に入るときの挨拶はヘルメットをとらない。打席内でサインを見る。
  - (2) 先頭打者とベースコーチは、攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
  - (3) 投手は投手板付近でボールを受け取り、すみやかに投球板を踏み投球準備に入る。

5. ユニフォームの着用にあたって次の点に注意する。

- (1) 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す番号であり、全員が続き番号であること。
- (2) 見苦しくないように着用する。
  - ① 上着の裾を出さないのはもちろん、たるませずベルトが見えるように着る。
  - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
  - ③ 肩の部分をたくし上げない。
  - ④ ユニフォームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。
- (3) ストッキングについて次の通りとする。
  - ① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
  - ② ハイカットストッキングは禁止する。
- (4) 主将は左胸マーク下に主マークを付ける。(主将が捕手の場合は袖に付ける)
- (5) スコアラーの服装は、選手と同じユニフォーム又は在籍中学校の制服とする。

6. ユニフォーム以外の用具等について

- (1) ヘルメットはSGマークのついたものを、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。  
また、安全性が確保できないと判断されたもの(例：保護パット不装着、ひび割れ等)は使用できない。
- (2) 捕手の装具は連盟公認のマークのついた物を使用する。マスクでスロートガード一体型のものは、スロートガードをつける必要はない。
- (3) 野球用の手袋で打者・走者・投手以外の守備に使用できる。リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のものとする。色は白・黒の単色のみとする。
- (4) レッグガード・エルボーガードは原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、攻守の決定時に大会本部に申し出て許可を得る。
- (5) 滑り止めスプレーの使用を禁止する。
- (6) リストバンドは使用できない。また、サポーター(手首や指を固定、保護する目的の物)の使用は医療目的に限り、試合前に大会本部に申し出て許可を得る。

7. 監督・コーチの服装については次の通りとする。

- (1) 監督、コーチは選手と同じユニフォームを着用し、選手と同色のスパイク(アップシューズも可)を履くこと。
- (2) 監督は背番号30番を付ける。ユニフォームを着用するコーチは29番、28番を付ける。
- (3) グラウンドに出ないコーチの服装は平服(ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ)に選手と同一の帽子とする。ただし、女性の場合は考慮し、それに準ずる服装とする。
- (4) サングラスは使用しない。(事情がある場合は大会本部に事前に許可を得ること)

8. 各チームの監督は、試合終了後に大会本部に、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。

9. 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援団への挨拶は認める。

～熱中症予防の観点から～

※ 4回終了時および延長戦開始前のグラウンド整備(3分程度)の間に、選手および応援団の健康状況の確認を行うこと。

※ スタンドの各ベンチより外野側へのテントの設置を許可する。テントの設置については自チームで責任をもつこと。その際は競技に影響(テントの色でボールが見にくくなるなど)がないように注意すること。(その他球場外の指定された場所以外へのテントの設営は禁止)